金城学院大学　シラバス

開講年度(Year)	2021年度	開講科目コード(Course code)	06380001
授業科目名(Course name)	ステージアクティング		
担当者(Instructors)	三輪 えり花		
開設学部学科(Department)	文学部　音楽芸術学科	科目分類番号(Course classification number)	263
開講クラス(Class)	音２（集中除４）	開講形態（Course format)	演習
科目区分(Course classification)	専門教育科目 専門教育科目	単位数(Credits)	2
開講期・曜日・時限(Semester / Day of the week / Period)	後期 集中講義	担当形態（Instructor format)	単独
実験実習費（円）(Experiment/training fee (yen))	2,500	履修者数上限（名）(Maximum number of students)	

他学部他学科生履修不可(No other undergraduate departments students can study)

■授業の概要(Course outline)

アーティストとしての身体表現と心理表現とを一体化させ、舞台上で輝くパフォーマーになるために必要な諸要素を学ぶ。自らのこと、役柄のことを追求するためにすべきこと、そして相手役との共同作業としての舞台表現を磨く、3日間の集中講義である。受講生は実際に身体を動かしながら、演劇やオペラの台本を用いながら、実践形式で表現を学び、最終日にはそれぞれが選んだ場面を発表することを目指す

■到達目標(Course goals)

ステージ上でのマナーや、美しい動作、自己解放法を身につけている。

■履修上の留意点(Important points)

床に寝転がったりするので、動きやすい服装と足元で参加すること（スカート、ハイヒール不可）。だが、13回目以降はきちんとしたコンサート用の服装と靴で参加すること。

■学位授与方針（Diploma policy)

１．知識・理解

音楽芸術に関する専門的知識と演奏技能を身につけるとともに、豊かな人間性を支える教養と深い専門的知識を身につけている。　◎

２．汎用的技能

日本語や英語で多様な人々とコミュニケーションを行うとともに、音楽演奏を通じて様々な楽想を適切に表現し伝えることができる。　◎

３．態度・志向性

自らを律し、他者と協働して目標の実現のために行動できるとともに、向上心を持って学び続けることができる。　◎

■授業計画(Lesson plan)

1. アーティストのベースとなる身体の使い方
2. 呼吸法
3. 立ち姿と歩き方
4. 台本読解
5. 登場人物解釈方法
6. 舞台人としてのリラクゼーション方法

7. 舞台で動くためのエネルギーバランス
8. 欧米の上流階級を扱う作品（オペラ等）で必要な貴族の立ちいふるまい
9. 台本読解の深めかた
10. 登場人物像をつかむ
11. 特殊な役柄のたちいふるまい（老人や酔っ払いなど）
12. 相手との呼応ライブインタラクション（直接の呼応）
13. リハーサルの方法
14. リハーサルの実践とパフォーマンス
15. リハーサルの実践とパフォーマンス

■授業時間外学修（予習・復習）の内容・時間(Preparation/review details and time)

・キリスト教文化について、インターネット等で勉強し、レポートをまとめておくこと（道徳観、罪悪感、結婚の意味、女性の立場、階級制度など）

・ルネサンスについて、インターネット等で勉強し、レポートをまとめておくこと（ルネサンスとは、および、それまでの世界観とルネサンス以降の世界観について）

・インターネット等で、現代（ここ3～５年ほど）のオペラ作品やミュージカル作品を観て、学びをレポートにまとめておくこと

■課題／課題に対するフィードバックの方法(Assignments/feedback)

事前レポートおよび授業内の課題は授業内でフィードバックを行う

■テキスト・参考書(Textbooks/references)

『英国の演技術』三輪えり花著（玉川大学出版）
『クラシカル・アクティング』マルコルム・モリソン著、三輪えり花訳（而立書房）
『シェイクスピアの演技術』三輪えり花著（玉川大学出版）

■評価方法(Evaluation method)

事前レポート　30%

各回の課題達成　35%

実践発表　35%

自ら考え、自発的に実践に移す姿勢の有無

■授業時間外の学生からの質問への対応(Responding to questions from students outside class hours)

メールにて受け付け、内容に応じて個別または授業内で対応。